

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)厚木プロジェクト	階数	地上4F
建設地	平塚市大神七丁目10-1、10-2、10-3、10-4、10-5、10-6	構造	S造
用地地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年7月 予定	評価の実施日	2026年4月17日 (株)ナカノフドー建設東京本店一級建築士事務所
敷地面積	24,308 m ²	作成者	2026年4月17日 (株)ナカノフドー建設東京本店一級建築士事務所
建築面積	16,287 m ²	確認日	
延床面積	53,297 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

環境品質 G

環境負荷 L

BEE=1.0

3.0 1.5

100 50 0

0 50 100

S A B+ B- C

57 1.5 35

2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

①参照値 100%

②建築物の取組み 78%

③上記+②以外の 78%

④上記+ 78%

0 20 40 60 80

(kg-CO_{2eq}/年・m²)

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

LR3 敷地外環境

LR2 資源・マテリアル

LR1 エネルギー

Q1 室内環境

N.A.

5 4 3 2 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア= 0.0	Q2のスコア= 3.4	Q3のスコア= 3.1
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.6	LR2のスコア= 3.4	LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 ・小田急小田原線 本厚木駅からバスで19分の準工業地域に、倉庫業を営む倉庫をS造・4Fにて計画した。		その他 —
Q1 室内環境 ・評価対象外。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) ・植栽による修景、視点場からの外観パースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。
LR1 エネルギー ・BEI _m =0.46、LED照明設備採用。	LR2 資源・マテリアル ・材料使用量削減のためF.T.Pile構法等を採用している。	LR3 敷地外環境 ・駐車場等の確保の他に、交通渋滞緩和対策として、対面交通出入口合計3箇所、専用出口1箇所の他にも、導入口にトラック待機場(7台)も設置している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される